

香取広域市町村圏事務組合消防本部ヒアリング調査結果

日時：平成 28 年 8 月 8 日 13:30～14:20

場所：香取広域市町村圏事務組合消防本部 3F 会議室

- ① 「香取広域市町村圏事務組合消防本部より受領した、平成 27 年救急搬送統計データにて、軽症や中等症の患者の多くが国保旭中央病院や成田赤十字病院に搬送されている理由について」
 - 1) 患者のかかりつけ医が国保旭中央病院や成田赤十字病院であるため。
 - 2) 県立佐原病院や小見川総合病院などの香取市内の医療機関に受入れを断られたため。（平成 27 年に香取市内の医療機関に受入れを断られ、市外に搬送した件数が 467 件であった）
 - 3) 患者若しくは患者家族がその病院への搬送を拒否することがあるため。
 - 4) 頭部外傷患者の中で、現場で軽症と判断した場合でも、患部が頭部であるというだけで搬送を断られる場合がある。これは病院の検査設備の不足ではなく、頭部を専門とする医師が不足しているからである。

- ② 「香取地域医療の課題について」
 - 1) 患者のかかりつけ医が香取市内の医療機関であれば、まずは香取市内の医療機関へ搬送されるべきである。
 - 2) 県立佐原病院と小見川総合病院の夜間当直体制において、当直医の担当する科ができる限り重複（例えば 2 病院共に内科等）しないようにすべきである。
 - 3) 救急車を呼ぶ必要がないと判断される症状でも救急車を呼んでしまうなど、市民が救急車の適正利用をできていない場合がある。本当に必要な時に現場到着に時間がかかってしまう恐れもあるため、市民に対する啓発活動が必要かと思われる。

- ③ 「香取地域医療の在り方に関するご要望」
 - 1) 軽症・中等症の患者については特に市内の医療機関に搬送したい。また、香取市内の診療所で休日・夜間のみならず 24 時間輪番体制を確立し救急搬送に対応できれば、搬送時間の短縮も図れるのではないかと思われる。